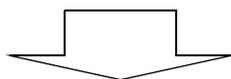


【小学校 算数】

算数 A (知識)	<p>□成果や改善が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none">・整数及び小数、分数の四則計算を行うこと・直方体の面の形や大きさ、体積の求め方について理解すること。・ひし形の定義や性質について理解すること・棒グラフから数量が最も大きい項目を読み取ること <p>■課題が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none">・はかりの目盛りを読むこと・平行四辺形の面積を求めること・百分率の意味について理解すること	算数 B (活用)	<p>□成果や改善が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none">・目的に応じて表から情報を読み取ること <p>■課題が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none">・比較量の大小判断について、示された判断が正しい理由を記述すること・示された操作の意味を理解し、できた図形の形と大きさを判断して、それを記述すること・小数倍の意味に基づいて、2量の関係を正しく表している図を判断し、その理由を記述すること・条件に対応して表を読み、示されたきまりを基に判断して、その考えを記述すること
---------------------	--	---------------------	---



学校における学習活動の改善方策例

- 1kgばかりや2kgばかりなど最小目盛りの大きさが異なるはかりを用いて重さを測定する活動を取り入れ、計器によって一目盛りが表している重さが異なっていることに気付かせる。
- 平行四辺形を長方形に変形する活動を取り入れ、底辺と高さを確実に理解できるようにするなど、図形の面積を求める公式を作り出す際には、既に学習した求積可能な図形の面積の求め方を基に考えさせる。
- 図形の面積を求める際に、必要な長さを全て与えるのではなく、求積のためにはどの部分の長さを知る必要があるのかを考えさせる活動を取り入れる。
- 基準量が何かを考えられるよう、数量の関係をテープ図などに表す活動を取り入れ、百分率を考えられるようにする。
- 基本的な平面図形をかいたり作ったりする場面で、辺を表す言葉、辺の長さや角の大きさを表す数値、図形の名称などを用いて、図形を言葉で表現し、伝え合う活動を取り入れる。
- 曖昧な説明を基にして、より分かりやすい説明へ改善する活動を取り入れ、根拠を明確にしたり、説明に補うべき内容などを確認する。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

- ※ 算数以外の学習や日常生活の中で問題を解決するときに、百分率を用いてみましょう。
- ※ 図形の面積を求めるときには、これまでに習った図形の面積の求め方を基に考えてみましょう。
- ※ 自分の考えの根拠となることからをはっきりさせて、問題の解き方を自分の言葉でノートに書きましょう。
- ※ 図形をかくときには、「正方形」「一辺」「〇cm」など算数の用語を使って、ノートに図形の大きさや自分の考えを説明する文章を書いてみましょう。